

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02254

研究課題名（和文）長寿社会での防貧策としての家計管理

研究課題名（英文）Household budget management as a preventive measure against poverty in aged society

研究代表者

大塩 まゆみ（Ohshio, Mayumi）

龍谷大学・社会学部・教授

研究者番号：90269738

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：老後生活に不安を感じている人が多く、老後不安には経済的要因が大きいことから、老後不安軽減のための家計管理に着目した。家計簿の診断を連載している生活情報紙のウェブ会員を対象にアンケート調査を行い、老後の不安軽減のための家計管理等について分析した。ライフプラン・マネープランと家計管理や健康管理の実態・方法等について質問した。

その結果、家計簿をつけている人のほうが、つけていない人よりも自分の年金額を把握し将来のライフプランもマネープランを立てている人が多かった。以上から、老後不安に対して個人的に対処する方法として、家計簿をつけ、将来のライフプラン・マネープランをたてるという方法を提案したい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

老後生活に不安を感じている人に対して、現実的に実行しやすい対処法を提案した。その根拠として、これまでの統計の利用に加えて、新たにアンケート調査をして、科学的な理由付けをした点に学術的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Since many people are anxious about life in old age and economic factors play a major role in retirement anxiety, I focused on household budget management to reduce retirement anxiety. I conducted a questionnaire survey of web members of a lifestyle information newspaper that publishes a series of diagnoses of household budgets, and analyzed household budget management, etc. to reduce anxiety in old age. The respondents were asked about their life and money plans and the actual conditions and methods of household budget management and health management.

The results showed that those who kept a household account book were more likely than those who did not to keep a household account book to understand their own pension amount and to have a life and money plan for the future. Based on the above, we would like to propose a method of keeping a household account book and making a life and money plan for the future as a way to cope with retirement anxiety on a personal basis.

研究分野：社会福祉学

キーワード：高齢期 家計 老後 家計管理 老後不安 人生設計 家計簿 マネープラン

1. 研究開始当初の背景

研究開始時は、生活情報紙『リビング京都』紙の「かけいば診断」に掲載された10年間の家計簿診断希望者の家計簿を分析し、どのような傾向の家計の悩みがあるのか等について、年代別・世帯構成別などの特徴を明らかにしようと考えた。それは、長寿社会の日本では、老後生活に不安を感じている人が多いという調査結果があったからである。

その背景には、社会保障の年金保険への信頼度・期待度が下がり、自己責任で老後資金を準備しなければならないと考える人、老後生活に不安を感じる人が多くなっている社会的背景があった。

老後不安には経済的要因が大きいことから、老後の貧困予防をするための家計管理に着目した。そこで、家計管理の基礎となる家計簿の診断を連載している生活情報紙のウェブ会員を対象にアンケート調査を行い、老後の不安軽減のための家計管理等について分析した。生活情報紙のウェブ会員を対象にしたのは、なるべく幅広い社会階層の人を対象にしたいので、無料で個別配布される生活情報誌のほうが、不特定多数の人の回答を得られると考えたからである。

アンケート調査では、老後生活の不安感や現在の心配事、家計管理や家計簿に対する意識・現状、老後の不安をなくすための行動、自分の年金額把握実態、ライフプラン・マネープランと家計管理や健康管理の実態・方法等について質問した。

2. 研究の目的

老後の生活不安問題の傾向を明らかにするために、アンケート調査では、まず老後生活の不安感や現在の心配事や困り事を質問し、家計管理と家計簿に対する意識・現状等を把握することを目的とした。次に、老後不安への対応法の一つとして、これまで筆者が実践してきたライフプラン設計にマネープランを加えて、これらの生活設計と老後不安や家計管理の関係を分析した。

具体的には、老後生活に備え、ライフプランやマネープランをたて、家計管理や健康管理をしている人がどれくらいかを把握することである。家計管理をするためには世帯の家計を把握することが必要だが、家計簿をつけている人は、どれくらいの割合か。家計簿は家計管理や老後の不安解消に役立っているのか。家計簿をつけているか否かとライフプラン・マネープランの生活設計に関係があるのか、というような疑問を質問紙調査により明らかにし、老後不安の解決の糸口を探った。さらに、家計管理行動の実態・方法や自身の年金額把握状況等を把握し、家計簿をつけているか否かによる分析をした。これらを通して老後の貧困予防のために個人ができる方策を追究した。

3. 研究の方法

・『リビング京都』のweb会員に対するアンケート調査。メールでのアンケート用紙配布と回収。

・調査時期・期間：2022年1月28(金)～2022年2月6日(日)

・調査対象：『リビング京都』のWeb会員として2022年2月1日時点で登録されている19,247名

4. 研究成果

- ・ 調査結果

- ・ 回答者：2,037名（10.6%）、有効回答数：1,995名（10.4%）

- ・ 基本属性

- ・ 有効回答者の基本属性は以下のとおりである。

1) 対象地域：京都市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、大山崎町、その他（木津川市、亀岡市等）

2) 性別：男性 27.3%、女性 72.7%

3) 年代別

年齢階層	実数	比率（%）
20 歳代以下	56	2.8
30 歳代	264	13.2
40 歳代	408	20.5
50 歳代	595	29.8
60 歳代	442	22.2
70 歳以上	230	11.5
合計	1995	100.0

平均年齢 53.5 歳

1) 将来のプランと老後の不安

以上の調査結果から、多くの人が老後の家計に不安を感じていることを確認した。特に、老後不安を感じている人が多いのは、自分の年金を把握していない、ライフプランもマネープランもたてていない人に多い事がわかった。自分の年金を把握し、将来のライフプランやマネープランをたてている人は、老後不安が比較的少ない。

したがって、老後の不安をなくす方法として、将来の生活設計（ライフプランとそれに伴うマネープラン）をたてる事が有用だと考えられる。

2) 将来の生活設計と家計簿

次に家計簿をつけている人とつけていない人で、将来のプランをたてているか否かの違いから、家計簿をつけている人のほうが、将来のライフプランもマネープランもたてているという人が多かった。

3) 高齢期の貧困予防と現在の家計管理

本調査では、老後生活の不安を家計という側面から調査したが、家計に焦点を当てたのは、家計が心身および社会的健康や生活習慣の基盤になっているからである。

子どもの頃からの生活習慣が病気の発症・進行に影響するのと同様に、普段の経済的基盤や家計管理の習慣に着目して、より良い家計管理習慣を積み重ねる意識づけをすることが重要だと考える。体の定期健診が自分の生活習慣に目を向けるきっかけになるように、家計をチェックすることでも生活習慣を点検することができる。

本調査で、老後に不安を感じると回答した人に、不安をなくすために何が行動をしているかを複数回答で尋ねたところ、特に50歳代で、「何もしていない」「何をしたらよいかわからない」がそれぞれ3人に1人の割合だった。高齢期が近づいているこの年代で、特に、老後の健康や家計のための準備をすることが、老後不安を軽減するための一案と考えられる。

そして、自分の収入を得られるようになる年代、または所帯を持った時点から、簡単な家計簿をつけ世帯の収支把握と家計管理する習慣をつけることが、老後生活の不安予防になると考えられる。

4) ライフプランとマネープラン

筆者は、大学1年次の授業で、学生に「夢ある My Life Plan」を描かせ、自分の理想の寿命や今後の目標も考えさせてきた。その中で明らかになったことは、人生に夢や希望がない学生は、自分の寿命を短く設定しており、今の生活が充実していて、将来に夢や希望を持っている学生は自分の寿命を長く設定しているという傾向があった。今回の調査とは若干はズレるが、将来のライフプランを立てることは、生きる希望や目標を見つけることであり、それに向かった生活設計を考えることになる。生活するためには、生活費が必要なので、ライフプランには、マネープランも必要になる。

そこで、このようなライフプラン・マネープランを成人時に考えることは、老後不安を予防し、着実な人生を歩むためにも有効だと考える。また、節目節目でライフプラン・マネープランをチェックし、更新していくことで、より良い人生が送れるのではないかと考える。本調査では、70歳以上では老後の不安を感じる人が、それまでの年代よりも少なかった。その理由は、わからない。しかし、老後の不安が取り越し苦労の場合もある。ライフプラン・マネープランをたて、将来の見通しをつけておくと、暗がりの中を歩くような不安はないと考えられる。

詳細は、『龍谷大学社会学部紀要』第63号参照。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大塩まゆみ
2. 発表標題 防貧のための家計管理～「家計簿診断」から見る老後不安
3. 学会等名 社会政策学会総合福祉部会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------